日本の大学図書館における学習支援サービスの現状

立石亜紀子（東京大学駒場図書館）
tateishi.akiko@mail.u-tokyo.ac.jp

１.研究の目的

近年の大学をめぐる環境変化に伴い，大学図書館の役割も変わりつつある。大学図書館の学習支援機能の強化もその一つといえるが，従来大学図書館が提供してきた学習支援サービスと，近年新たに求められている学習支援サービスとでは違いがあると考えられる。本調査では，大学図書館で現在実施されている学習支援サービスの内容と形式を調査し，また，大学図書館が学習支援サービスの提供にどのような認識を持っているかを明らかにすることで，今後の大学図書館の学習支援サービスのゆくえを検討する。

２.調査方法

２．１ 調査対象

調査対象は,『平成 24 年度学術情報基盤実態調査』において，規模別大学一覧表でA（学部数 8 学部以上）およびB（学部数 5 学部以上 7 学部以下）に分類される国公私立大学 142 校の附属図書館とした。対象図書館は各校の中央図書館および分館とし，分館が複数ある場合にはキャンパスごとに代表的な 1 館と考えられる館を『日本の図書館: 統計と名簿. 名簿編 2009 年版』および各大学のウェブページを元に抽出した。なお，中央館と呼べる館が存在しないと考えられる場合には，1 キャンパスに 2 つ以上の図書館を対象としている。また，主に学部学生への学習支援サービスについて調査することを目的としたため，大学院および研究所専用の図書館・室は対象から除外した。結果，340 館が対象となった。

２．２ 調査方法

調査方法は質問紙調査とした。調査期間は 2013 年 9 月 1 日～30 日である。郵送で質問紙を送り回答を依頼した。9 月 23 日に葉書による督促を行い，督促時には封書と同様の内容をウェブで回答できるフォームを用意してその URL を案内した。なお，締切を過ぎてから届いた回答も有効としている。

調査内容は主に以下の通りで，2012 年度における実施状況を尋ねた。

1. 実施中の学習支援サービスの内容と提供形式
2. 教員への授業支援サービス
3. ラーニング・コモンズの設置状況
4. 学習支援サービスに対する館の方針
5. 利用者が図書館サービスにかかわるための仕組み

「学習支援サービス」の内容は，呑海・溝上による先行研究 [1)]と，文献調査により各大学図書館が「学習支援」として実施していることを報告している内容から選択した。

３．調査結果

３．１ 回答数と回収率

調査の結果，193 館から回答があり，回収率は 56.8%となった。

３．２ 実施中の学習支援サービス

現在実施中の学習支援サービスについて合計で 15 の項目について尋ねた。項目は，1)伝統的な図書館利用教育,2) 近年情報リテラシー教育の一環となりつつあるアカデ

ミック・スキルに関する支援，3)その他の学生生活に関する支援，の大きく 3 つのカテゴリにわかれている。それぞれの項目については，どのような提供方式で実施しているかも尋ねている。提供方式は以下の①～④の 4 つの方式を用意し，1 つの項目について複数の方式を選択可とした。

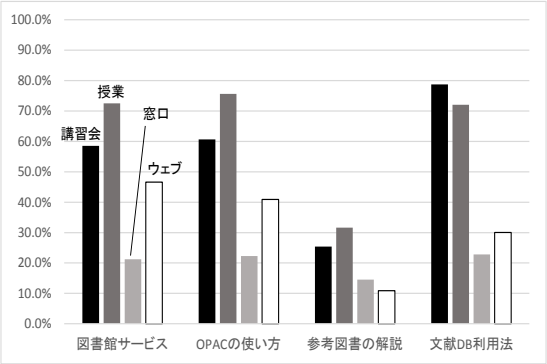
① 図書館独自開催の講習会
② 正規の授業
③ レファレンス窓口とは別の相談窓口
④ ウェブサイトや e-ラーニング

３．２ 1)図書館利用教育

従来型の図書館利用教育の実施状況を尋ねた。延べ数の結果が第 1 表，提供方式ごとの結果が第 1 図である。延べ数での実施率は「図書館サービス全般」と「OPAC の使い方」が 182 館(94.3%)，「文献データベース利用法」が 181 館（93.8%)，「参考図書の解説」が 90 館（46.6%）となっており，「参考図書の解説」以外の項目については実施率が 90%以上と非常に高い。これらの項目は，「講習会」や「授業」での提供が多い。伝統的な図書館利用教育は，大規模大学の図書館では中央館・分館を問わずほとんどの館で実施されていた。

第 1 表　図書館利用教育の実施状況

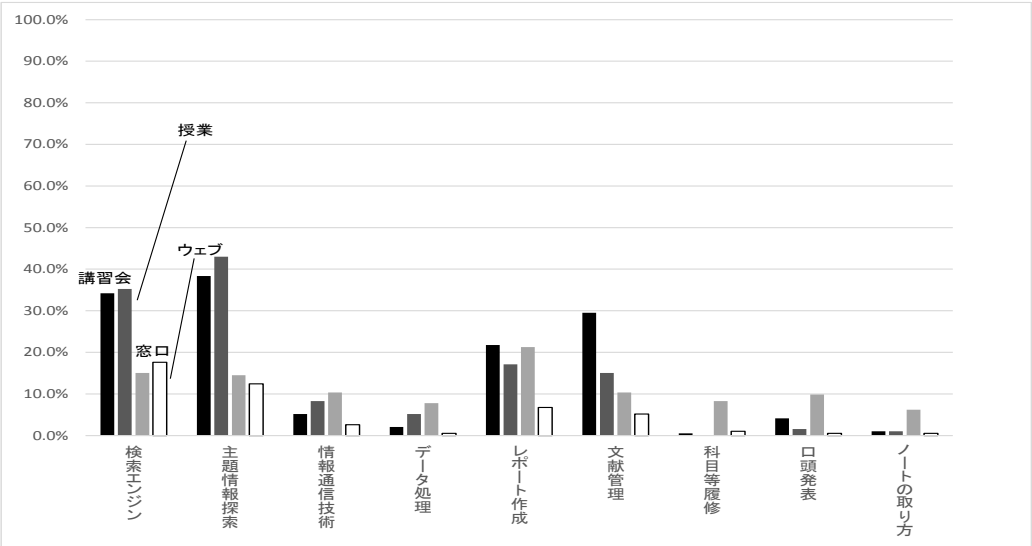
項目	回答館数	比率
図書館サービス全般	182	94.3%
OPACの使い方	182	94.3%
参考図書の解説	90	46.6%
文献DB利用法	181	93.8%



第 1 図　図書館利用教育（提供方式別）

３．２ 2)アカデミック・スキル

第 2 表はアカデミック・スキルなどの学習支援の延べ数での実施状況，第 2 図は提供方式ごとの結果である。延べ数では，「検索エンジンの紹介」が 109 館（56.5%)，「主題別情報源探索指導」が 117 館(60.6%)となっており，伝統的な図書館利用教育の



第 2 図　アカデミック・スキル教育の実施状況（提供方式別）

延長上にある情報リテラシー教育については実施率が高かった。また形式としては第1 図の図書館利用教育同様に講習会や授業で実施している館が多い。

第 2 表　アカデミック・スキル教育実施状況

項目	回答館数	比率
検索エンジン	109	56.5%
主題情報探索	117	60.6%
情報通信技術	33	17.1%
データ処理	24	12.4%
レポート作成	78	40.4%
文献管理	67	34.7%
科目等履修	17	8.8%
口頭発表	26	13.5%
ノートの取り方	15	7.8%

この 2 つの項目に比較するとやや少ないが,「レポート作成支援」は 78 館（40.4%),「文献管理支援」も 67 館（34.7%）と実施率が比較的高い。「レポート作成支援」については,「相談窓口」での提供が多くなっているのが特徴である。レポート作成のような多様性が高い支援については，講習会・授業等の形式で教えるよりも，相談窓口で個別に対応する方がよいということであろう。

その他の項目については，いずれも 10～20%前後の実施率にとどまった。

３．２　３)図書館利用教育

「その他の学生生活支援」についても尋ねたが,「キャリア教育支援」は 25 館（13.0%),「その他の学生生活支援」は 15 館（7.8%）での実施であり，いずれもあまり実施率は高くなかった。

３．３授業支援

学習支援サービスを支える付帯の一つとして，教員の授業に対する支援サービスに図書館がどのように関わっているかを尋ねた（第 3 表)。

第 3 表　授業支援サービス

項目	回答館数	比率
初年次教育プログラムへの協力	136	70.5%
授業と連携したパスファインダーを作成	17	8.8%
授業の録画とオンライン公開	5	2.6%
教員への授業教材作成支援	4	2.1%

授業の録画・オンライン公開，教材作成支援などの実施率がいずれも 2%台と非常に低いだけでなく，比較的図書館サービスと関連が高いと考えられるパスファインダー作成についても，実施している回答館は 17 館（8.8%）にとどまった。しかし，初年次教育プログラムに何らかの形で図書館が関わっているとの回答（136 館/70.5%）は 7 割を超えており，図書館の標準的な学習支援サービスの一つとなりつつあることが確認できた。

３．４ラーニング・コモンズの設置

学習支援サービスとして近年注目が集まっているラーニング・コモンズの設置状況およびその運営主体について尋ねた（複数選択可)。結果が第 4 表である。

第 4 表　ラーニング・コモンズの設置状況

項目	回答館数	比率
図書館内に設置・運用主体は図書館	55	28.5%
図書館外に設置・運用主体は図書館	3	1.6%
図書館外に設置・運用主体は図書館以外	10	5.2%
設置していない	119	61.7%
無回答	8	4.2%

何らかの形で学内にラーニング・コモンズを「設置している」という回答の延べ数は，合計で 66 館（34.2%）となり，先行研究[2)]とほぼ同程度であった。「図書館内に設置し，図書館が運営」している形式が主流であるが,「設置場所が図書館外で，運用主体も図書館以外」であるパターンも数は少ないながら見られた。

３．５学習支援サービスへの意識

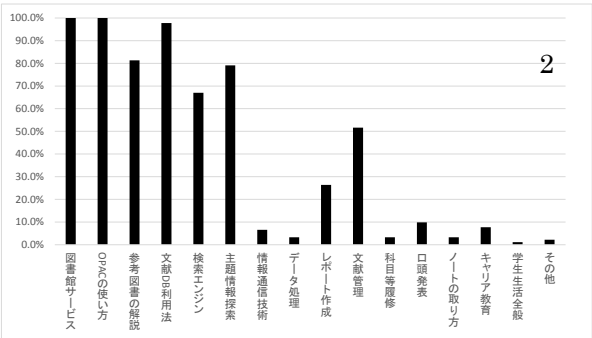
現在の各館の学習支援サービスへの取り組みに対する意識を尋ねた（第５表）。

第５表　学習支援サービスに対する意識

項目	回答館数	比率
a)図書館はこのような学習支援サービスに主体的に関わるべきである。	85	44.0%
b)このような学習支援サービスは図書館以外の部署が中心となるべきだが，図書館もその一部に関わるべきである。	91	47.2%
c)このような学習支援サービスは，図書館以外の部署が中心になって実施していくべきである。	2	1.0%
d)その他	15	7.8%

ここでは，3-2 で実施状況を尋ねた内容の学習支援サービスについて，a)図書館が中心となって主体的に関わるべき，b)図書館以外の部署が中心になりつつ，そこに図書館も一部協力していく形式が良い，c)図書館以外が中心になって実施していくべき，の中から，各館の方針に近いものをひとつだけ回答してもらった

c)の回答は少数だったが，a)「図書館が中心になる」，b)「図書館はその一部に関わる」の２つの回答がほぼ半々（44.1%/47.2%）に分かれた。b)の「一部に関わるべきである」と回答した館には，3-2 で尋ねた 15 項目のうち，どの内容に図書館が関わるべきかを回答してもらった（第３図）。



第３図　図書館が関わるべき学習支援

主に「図書館利用教育」と，その延長として発展した図書館での「情報リテラシー教育」に特化した内容が多く，情報技術支援，科目履修やノートの取り方，キャリア教育等については回答数が少なかった。

４．まとめ

「学習支援サービス」の内容は伝統的な図書館利用教育と，その延長上にある情報リテラシー教育が中心であり，従来の情報リテラシー教育の内容以上のものとして実施率が高かったのは，「レポート作成支援」，「文献管理支援」のみであった。現状では，従来の図書館の学習支援サービス以上の内容に，多くの大学図書館がすでに取り組んでいる，といえる状況にはない。

しかし，回答館の４割強（44.0%）は，現在は実施していないとはいえ，この種の幅広い学習支援サービスに「図書館が中心となって主体的に関わるべき」であると考えていることから，現在の状態は過渡期的であり，大学図書館が提供すべき学習支援サービスの内容について模索している最中であるといえる。

参考文献

1　呑海沙織，溝上智恵子.日本の大学図書館における学習支援の現状.大学図書館問題研究会誌. Vol.35, 2012, p.7-18.

2　立石亜紀子.日本の大学図書館におけるラーニング・コモンズの実態と傾向. 2011 年日本図書館情報学会春季研究集会発表要綱.2011.